

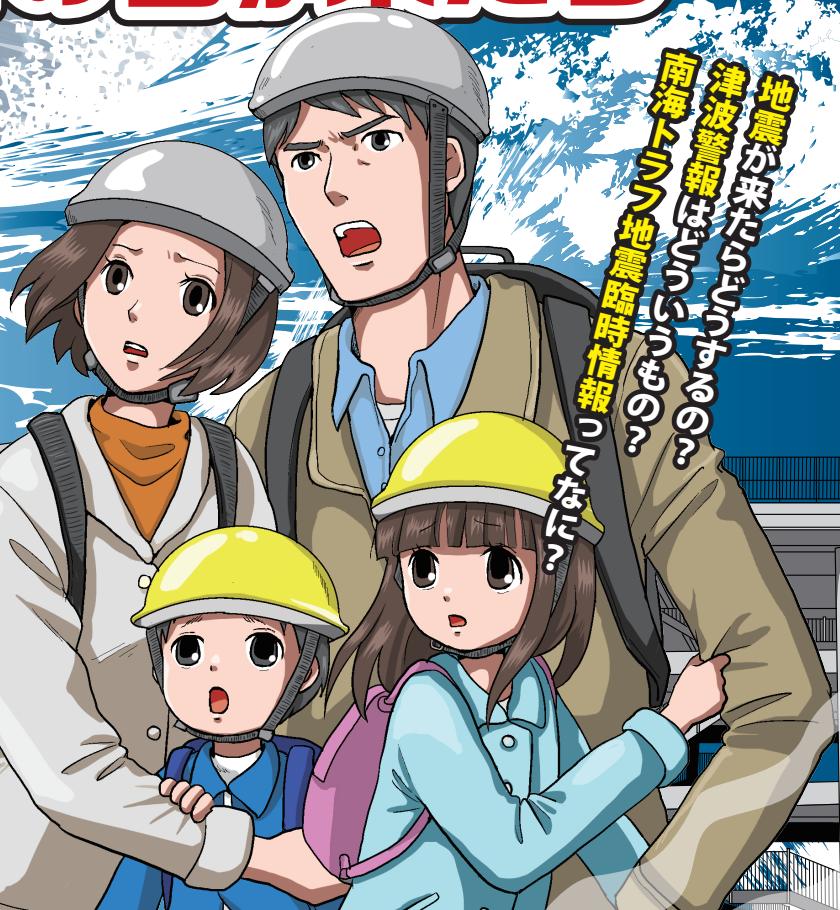
保存版

マンガで
解説！

南海トラフ地震 その日が来たら…

必要な行動や事前準備を
今から知つておこう！

地震が来たらどうするの？
津波警報はどういうもの？
南海トラフ地震臨時情報ってなに？



登場人物紹介

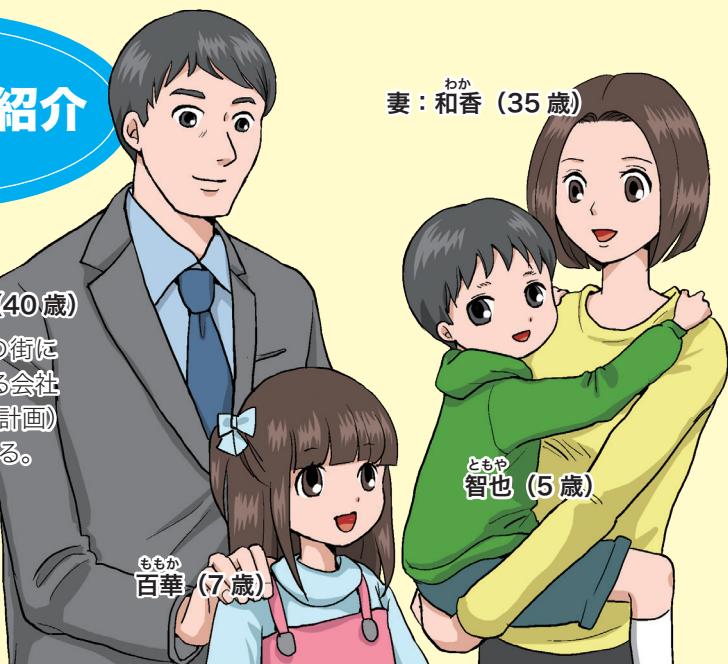
妻：和香（35歳）

主人公：東海克彦（40歳）

東海地方の海沿いの街に住んでいる。勤務する会社ではBCP（事業継続計画）部門の責任者でもある。

ももか
百華（7歳）

ともや
智也（5歳）



目 次

◆ 南海トラフ地震を知っていますか？	1
◆ マンガ「南海トラフが動いた日」	2～13
◆ 大きな地震への備え	14・15
◆ 南海トラフ地震臨時情報とは ～時間差で発生する巨大地震に備えましょう～	16・17
◆ 南海トラフ地震臨時情報発表時の対応 及びその時の状況	18・19
◆ 1週間の事前避難が終了してからの対応、または、 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表後の対応	20
◆ 最後に	20
◆ 南海トラフ地震に備えるためのマイタイムライン	21

※わかりやすさのため、演出上マスク等は描いていませんが、感染症対策について十分留意しながら実施してください。

南海トラフ地震を知っていますか？

マグニチュード
8~9クラスの地震が
今後**30年以内に**
発生する確率は
70~80%

過去より
繰り返し発生
しています

地震の発生の
しかたも様々
です

想定震源域の広い範囲で一度に割れる場合、東側と西側が別々に割れる場合もあり、これらが**連続して発生**することもあります。



※あくまで一例です。

連続して発生する
地震への備え

南海トラフ地震臨時情報^{※1}

情報発表時の
主な対応^{※2}



住民
1週間の事前避難
日頃からの地震への備え



企業
可能な限り事業継続



これから見てもらうマンガでは、東海地方に住む東海一家が、四国付近で発生した地震がきっかけで、南海トラフ地震臨時情報が発表され、続けて東海沖で発生するかもしれない地震に備えるところを描いています。

※1…南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについて知らせる情報。

※2…P17～19参照

南海トラフが動いた日

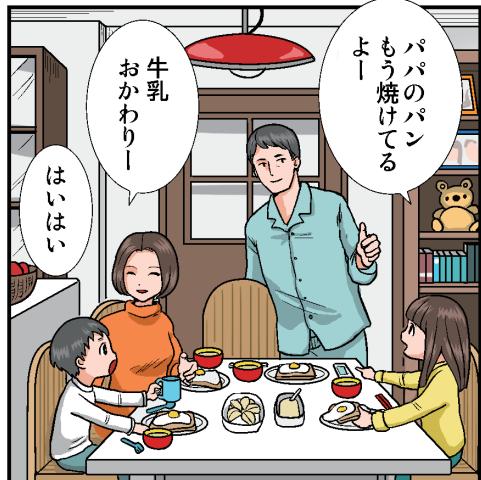
東海地方在住の東海家

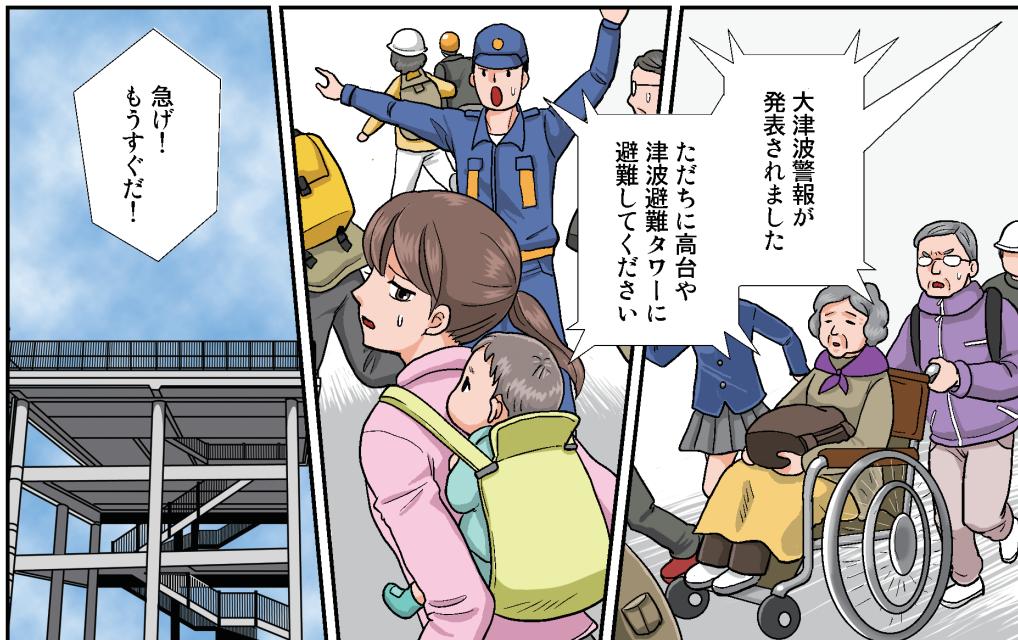
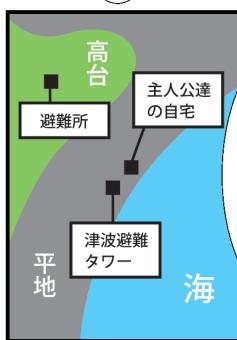
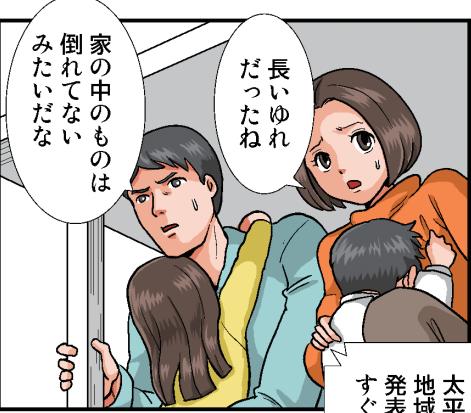
ふわ
もう朝か

ピ
ピ
ピ



7時10分
地震による揺れが
発生（震度4）

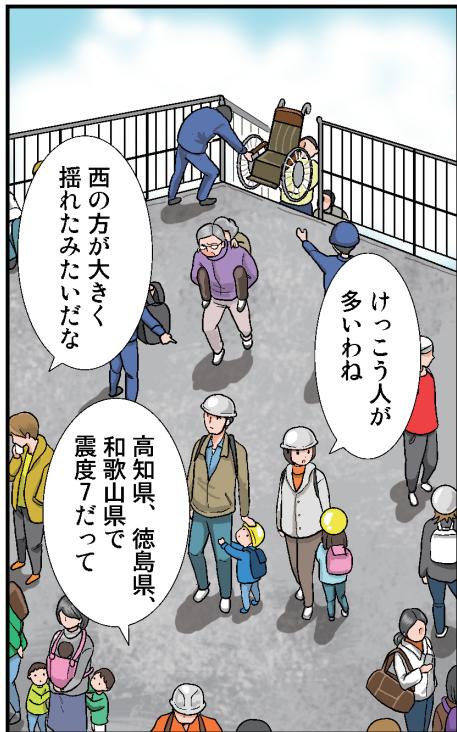




南海トラフ地震臨時情報 (調査中)



7時40分 情報発表

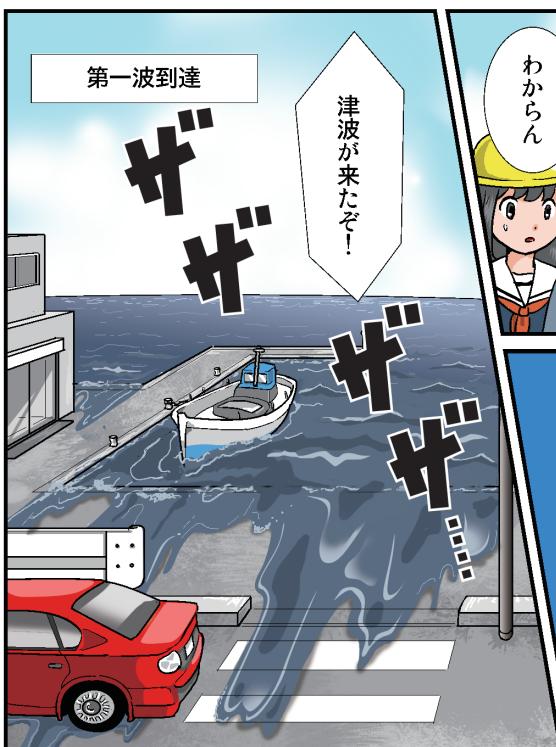


第一波到達

津波が来たぞ!

わからん

どういう意味の
発表だ?



?
南海トラフ地震臨時情報
(調査中)とは?

南海トラフ沿いで発生した地震がきっかけで、南海トラフ沿いで連続して大規模な地震が発生するかもしれないため、その可能性を調査しているということ。

詳細は P16

無事です

返信つと…

現在、家族全員で
津波避難タワーに
避難中です。
情報等を見ながら
行動を決めます。

送信

勤務先に
無事を報告

会社から
安否確認
メールだ

ピロリ



新着メール：1件

ああ、報道によると
地震は四国沖でおこった
みたいだね

こっちでも大きな
地震があるかも知れない
から注意しておこう

これなら家は
大丈夫かな

少しうまく水が
あつた程度ね

巨大地震警戒…!?

南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)

新しい
発表が出たぞ！

地震発生から約2時間後



南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒) とは?

南海トラフ沿いで発生した地震がきっかけで、南海トラフ沿いで連続して大規模な地震が発生する可能性が高まっている際に発表される情報のこと。

詳細は P16



どういった行動をとればいいの?

南海トラフ沿いで連続して発生する大規模な地震に伴う津波からの避難が間に合わない地域（事前避難対象地域）の住民は1週間避難を続けてください。それ以外の地域の住民も地震に対する日頃からの備えを再確認してください。

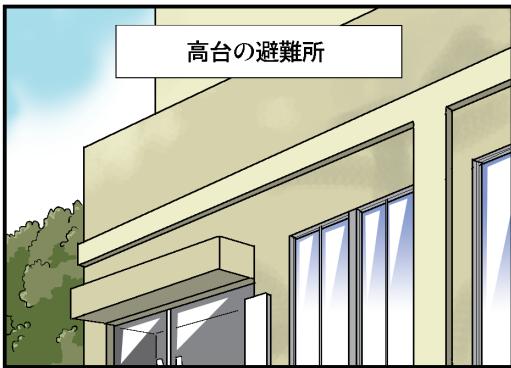
詳細は P17～19

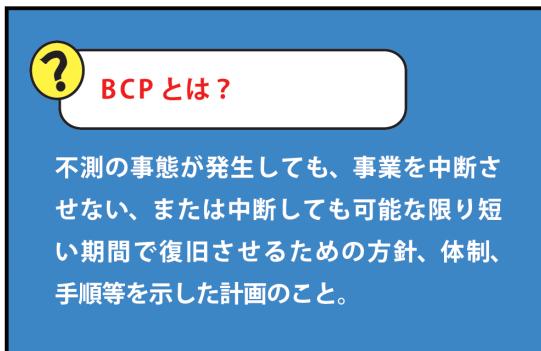




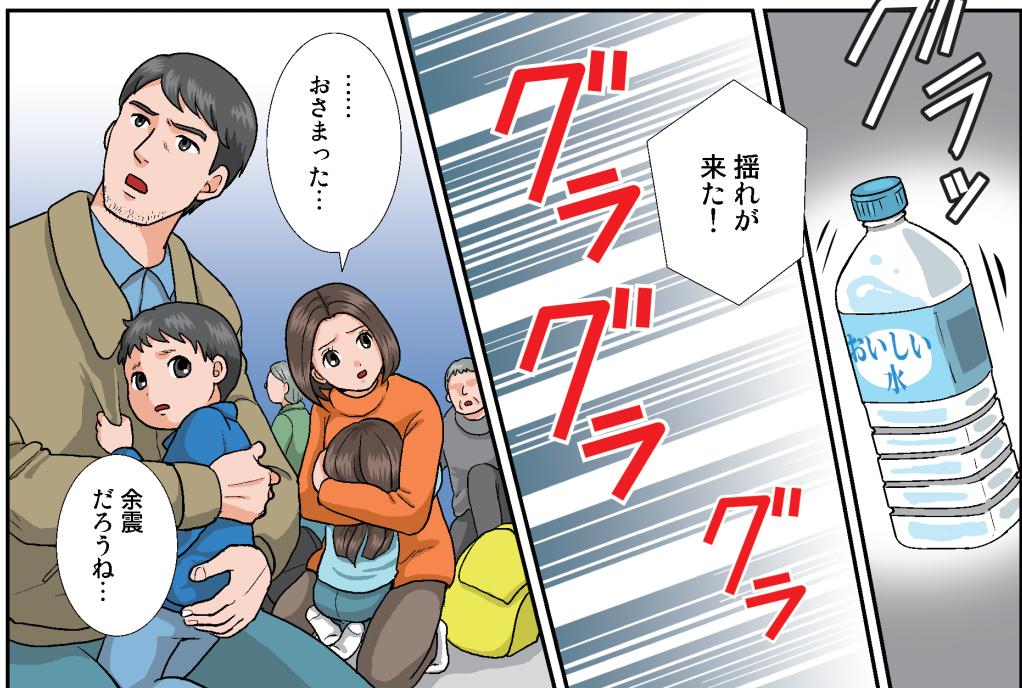
翌朝：津波警報解除

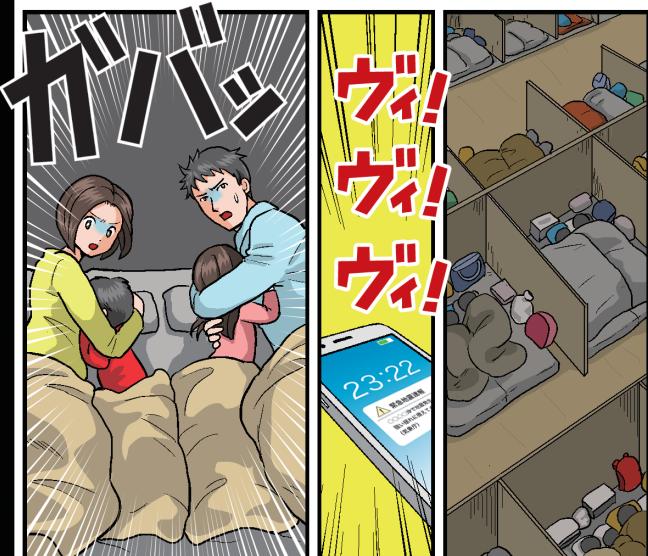
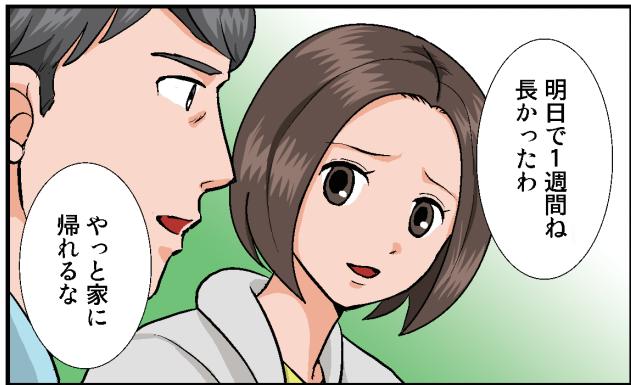












このあと、震度7の揺れがこの地域を襲いました。
また、地震に伴う巨大な津波がこの一家の住む地域に襲来し、
東海家の自宅は流されてしまいました。
しかし、南海トラフ地震臨時情報を受け、
この家族は事前に避難していたため、全員無事でした。
南海トラフ地震はもしかすると明日に起こるかもしれません。
そのときあなたならどうしますか。

揺れを感じたら…

屋内

- すぐテーブルの下へ隠れる
- 慌てて火を消しにいかない



屋外

- ブロック塀や窓ガラスから離れる
- 倒れそうな電柱、垂れ下がった電線、落ちてきそうな看板などに近づかない
- 公園や空き地で揺れがおさまるのを待つ



揺れをがおさまったら…

- 安全な場所に避難しよう



- 正確な情報を入手しよう



悪質なデマには
気をつけよう！

信じていい情報

- 市町村、都府県、国が出す情報
- 地域の新聞社、テレビ局、ラジオ局の情報

正確ではない情報

- SNS 等で流れれるうわさ
- 「○○がこう言ってた」などの二次情報

津波の警報について

地震が発生してから約3分(一部の地震※については約2分)を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表します。この時、予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表します。

※日本近海で発生し、緊急地震速報の技術によって精度の良い震源位置やマグニチュードが迅速に求められる地震

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表(津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超(10m<予想高さ) 10m(5m<予想高さ≤10m) 5m(3m<予想高さ≤5m)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
警津報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m(1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
注意津波	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m(0.2m≤予想高さ≤1m)	表記しない	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

- ・震源が「陸地に近い」と津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- ・津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- ・津波は沿岸の地形等の影響により、局的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- ・津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

大きな地震への備え

すぐにできることから始めよう（日頃からの地震への備え）

●家具の固定



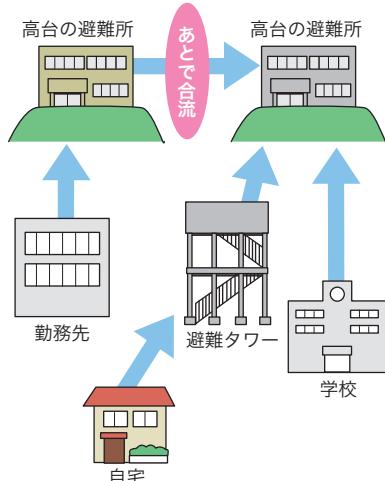
●家族との集合場所を話し合っているか

いざという時の集合場所を家族で話し合って決めておこう。

●強い揺れで物が落ちてこないか



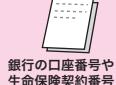
●避難場所や避難経路



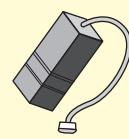
●非常持ち出し袋

避難先で一夜を過ごすこともあります。季節によって中身を変えたり等、工夫しましょう。

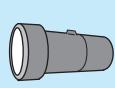
貴重品



まず入れておくもの



入れたほうがいいもの



人によって必要なもの



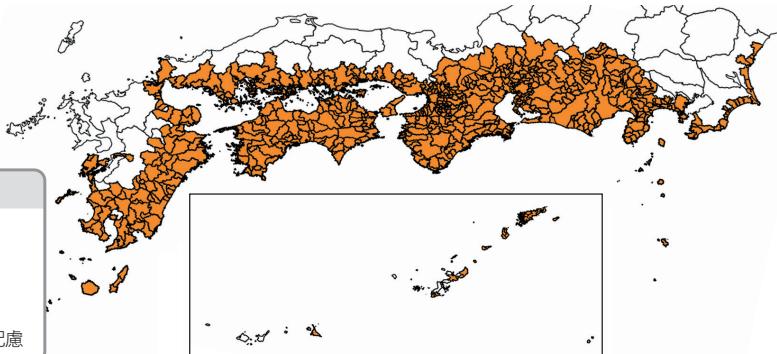
発生する巨大地震に備えましょう～

南海トラフ地震に備える地域は…

●関東から四国・九州にかけての広範囲に及びます

■ 南海トラフ地震で大きな揺れや津波が見込まれる地域

■ 南海トラフ地震
防災対策推進地域



指定基準の概要

- 震度 6 弱以上の地域
- 津波高 3m 以上で
海岸堤防が低い地域
- 防災体制の確保、
過去の被災履歴への配慮

南海トラフ地震に関連する情報について

●「南海トラフ地震臨時情報」と「南海トラフ地震関連解説情報」

「南海トラフ地震に関する情報」は南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、「南海トラフ地震臨時情報」と「南海トラフ地震関連解説情報」があります。「南海トラフ地震臨時情報」は、情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で発表します。

南海トラフ地震 臨時情報

発表条件

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

キーワード

調査中

- 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合

巨大地震警戒

- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合

巨大地震注意

- 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合
- 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合
- ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合

調査終了

- 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

南海トラフ地震 関連解説情報

発表条件

- 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)

南海トラフ地震臨時情報とは ～時間差で

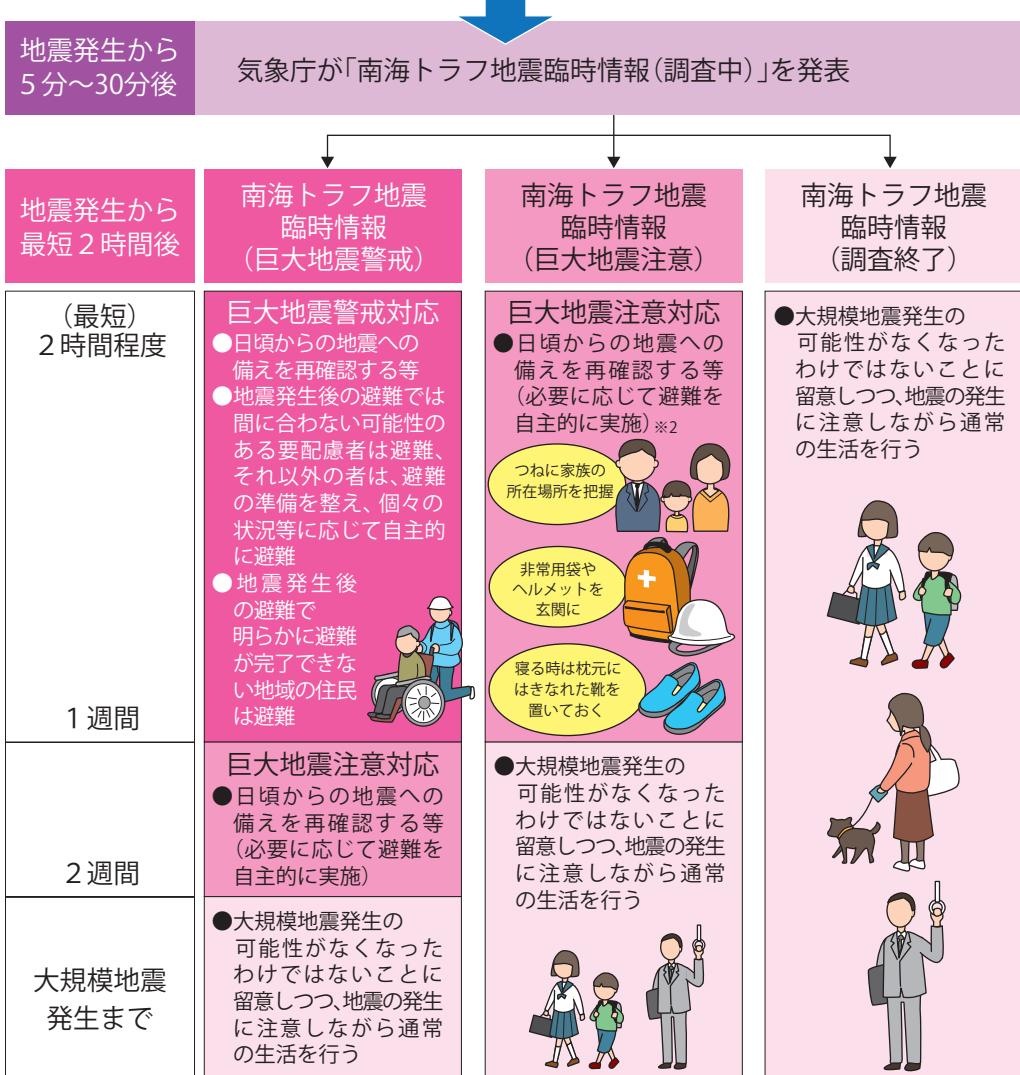
南海トラフ地震臨時情報が発表されたら…



- 政府や地方公共団体からの呼びかけに応じた防災対応をとりましょう
 - 1週間の事前避難が必要となる地域もあります

気象庁が南海トラフの想定震源域等で異常な現象を観測^{※1}

→個々の状況に応じて避難等の防災対応を準備・開始



※1 …南海トラフの想定震源域またはその周辺でM6.8以上の地震が発生または南海トラフの想定震源域のプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべりが発生した可能性がある場合。

※2…通常とは異なるゆっくりすすべりが観測された場合は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過した時まで。

南海トラフ地震臨時情報発表時の対応及び その時の状況

マンガで描かれている、先に起こった地震や南海トラフ地震臨時情報の発表を受けて、社会はどうなっていたのでしょうか。
地図で位置関係を整理しながら、各地域で何が起こっていたのかをみてみましょう。

大きな被害があった地域

- ・揺れや津波による甚大な被害、火災の発生
- ・人命優先の応急活動の実施
- ・不足する救援、医療、物資
- ・広範囲にわたり電気、ガス、上下水道、通信サービス等のライフラインが停止
- ・多くの道路で亀裂、沈下等による不通が生じ、鉄道や空港などの交通インフラも停止するなど



南海トラフ巨大地震の
想定震源域

大きな被害がなかった地域 (津波に備えた事前避難対象地域なし)

- ・大きな被害なし
- ・地震への備えを再確認し、地震に備えながら通常の生活を送る
- ・企業活動等は通常通り
- ・一部物資の不足が想定される



大きな被害がなかった地域 (津波に備えた事前避難対象地域あり)

- ・大きな被害なし
- ・事前避難対象地域の住民は1週間の事前避難
- ・企業活動はできる限り継続
- ・交通インフラについても、安全性に留意し、できる限り事業を継続
- ・学校等が休業することもある
(お住まいの自治体にご確認ください)
- ・生活必需品の買い占めが想定される



※マンガの設定を基に想定したものであり、南海トラフの東側の領域で先に巨大地震が発生する場合もあります。

1週間の事前避難が終了してからの対応、または、 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表後の対応

通常の生活を送りながら、次の地震に向けた備えを再度確認しましょう。

日頃からの地震への備えの再確認

●避難場所・避難経路の確認



●家族との安否確認手段の確認

SNS・メール・電話・
災害伝言ダイヤル

「171」に電話をかけて、伝言を残すときは
さらに「1」を、伝言を聞くときは「2」をおし、
自分の家の電話番号など、家族で決めておいた
番号をおすと使えます。



●家具の固定の確認



●非常持出品の確認など

- ・モバイルバッテリーは充電されているか？
- ・懐中電灯の電池は切れていないか？
- ・非常食の賞味期限は切れていないか？



できるだけ安全な防災行動

●高いところに物を置かない

●屋内のできるだけ安全な場所で生活



●すぐに避難できる準備(非常持出品等)

●危険なところにできるだけ近づかない



最後に

南海トラフ地震臨時情報は、必ず大きな地震が発生するというものではなく、これまで以上に発生する可能性が高まっているという情報です。そのため、正しく情報を理解し、適切に備えることが重要です。

南海トラフ沿いでは、大規模地震発生の切迫性が指摘されており、いつ地震が起きたても不思議ではありません。また、地震発生後、時間差で巨大地震が起こるおそれもあります。

あなたと大切な人の命を守るとともに、社会が混乱しないように、来たる地震への備えについて、日頃から考えておくことが大切です。まずは高いところに物を置かないなど、できることから始めましょう。

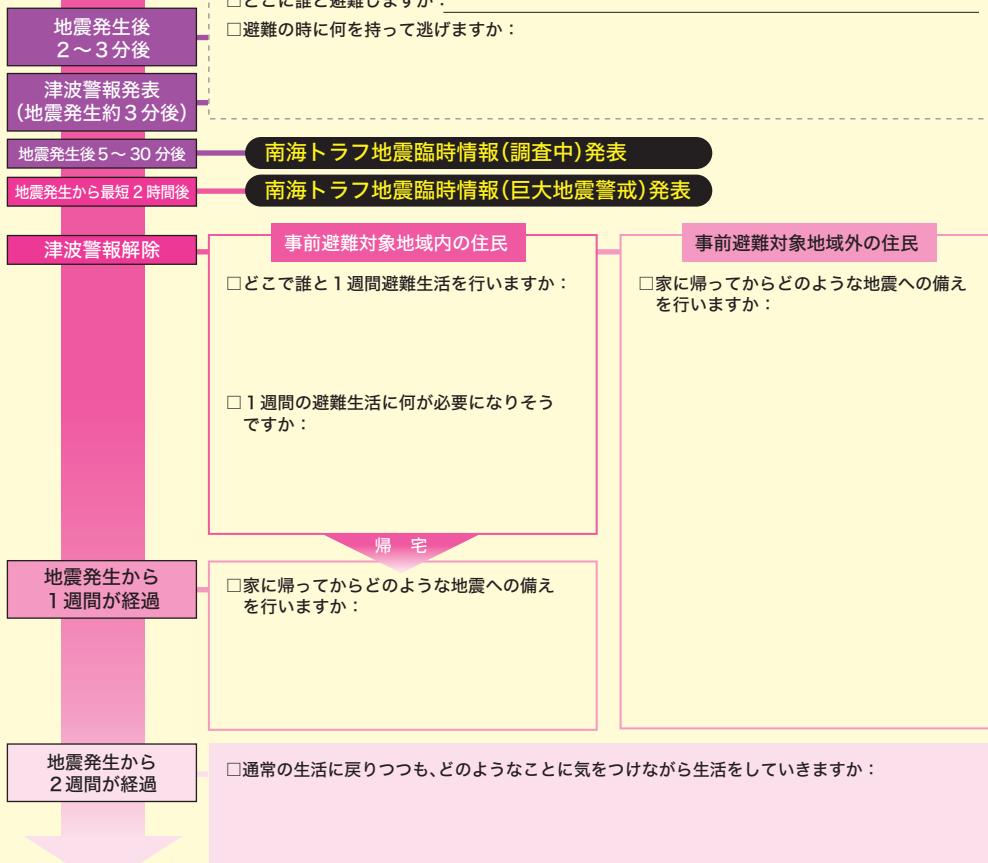
南海トラフ地震に備えるためのマイタイムライン

南海トラフ地震がいつ起こっても対応できるように事前に備えておきましょう

基本的な事項と地震への事前の備え

- 住んでいる場所：_____
- 家族構成：_____
- 持病の有無など：_____
- 避難場所と経路：_____
- 非常持ち出し袋の中身：_____

地震発生



監修

名古屋大学減災連携研究センター長
福和伸夫 教授



内閣府
Cabinet Office

政策統括官（防災担当）付
参事官（調査・企画担当）

〒100-8914
東京都千代田区永田町 1-6-1
中央合同庁舎 8 号館 3F
TEL : 03-5253-2111（大代表）
FAX : 03-3501-6820
<http://www.bousai.go.jp/>



気象庁

Japan Meteorological Agency

地震火山部 地震火山技術・調査課

〒105-8431
東京都港区虎ノ門 3-6-9
TEL : 03-6758-3900（代表）
FAX : 03-3584-8643（耳の不自由な方向け）
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>



総務省消防庁

Fire and Disaster Management Agency

国民保護・防災部防災課

〒100-0013
東京都千代田区霞が関 2-1-2
中央合同庁舎 2 号館
TEL : 03-5253-5111（代表）
FAX : 03-5253-7535
<https://www.fdma.go.jp/>

